



# **SnapMirror DR デスティネーション ボリュームからのデータの提供**

## **ONTAP 9**

NetApp  
February 12, 2026

# 目次

SnapMirror DRデスティネーション ボリュームからのデータの提供 .....	1
ONTAP SnapMirrorデスティネーション ボリュームを書き込み可能にする .....	1
ONTAPでこの処理を行うその他の方法 .....	3
データアクセス用にONTAP SnapMirrorデスティネーションボリュームを設定する .....	3
元のONTAP SnapMirrorソースボリュームを再アクティブ化する .....	4

# SnapMirror DR デスティネーション ボリュームからのデータの提供

## ONTAP SnapMirror デスティネーション ボリュームを書き込み可能にする

デスティネーション ボリュームからクライアントにデータを提供する前に、そのボリュームを書き込み可能にする必要があります。ソースが使用できなくなったときにミラー デスティネーションからデータを提供するには、デスティネーションへのスケジュールされた転送を停止し、SnapMirror 関係を解除してデスティネーションを書き込み可能にします。

### タスク概要

この手順はデスティネーション SVM またはデスティネーション クラスタから実行する必要があります。

### 手順

System Manager または ONTAP CLI を使用して、デスティネーション ボリュームを書き込み可能にできます。

## System Manager

1. 保護関係を選択します：[保護] > [関係] をクリックし、目的のボリューム名をクリックします。
2.  をクリックします。
3. スケジュールされた転送を停止します。\*[一時停止]\*をクリックします。
4. デスティネーションを書き込み可能にします。\*[解除]\*をクリックします。
5. メインの\*[関係]\*ページに移動し、関係の状態が「切断」と表示されることを確認します。

### 次の手順

デスティネーション ボリュームを書き込み可能にした後に"[レプリケーション関係を逆再同期する](#)"を実行する必要があります。

無効にしたソース ボリュームが使用可能な状態に戻ったら、関係を逆再同期して現在のデータを元のソース ボリュームにコピーする必要があります。

## CLI

1. デスティネーションに対するスケジュールされた転送を停止します。

```
snapmirror quiesce -source-path <SVM:volume|cluster://SVM/volume>  
-destination-path <SVM:volume|cluster://SVM/volume>
```

次の例では、`svm1`のソース ボリューム `volA`と `svm\_backup`のデスティネーション ボリューム `volA\_dst`間のスケジュールされた転送を停止します：

```
cluster_dst::> snapmirror quiesce -source-path svm1:volA  
-destination-path svm_backup:volA_dst
```

`snapmirror quiesce`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-quiesce.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-quiesce.html) ["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

2. デスティネーションに対する実行中の転送を停止します。

```
snapmirror abort -source-path <SVM:volume|cluster://SVM/volume>  
-destination-path <SVM:volume|cluster://SVM/volume>
```



SnapMirror同期関係（ONTAP 9.5以降でサポート）ではこの手順は必要ありません。

次の例では、`svm1`のソース ボリューム `volA`と `svm\_backup`のデスティネーション ボリューム `volA\_dst`間の進行中の転送を停止します：

```
cluster_dst::> snapmirror abort -source-path svm1:volA -destination
-path svm_backup:volA_dst
```

`snapmirror abort`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-abort.html> ["ONTAPコマンド リファレンス"]をご覧ください。

### 3. SnapMirror DR関係を解除します。

```
snapmirror break -source-path <SVM:volume|cluster://SVM/volume>
-destination-path <SVM:volume|cluster://SVM/volume>
```

次の例では、`svm1`のソース ボリューム `volA`と `svm\_backup`のデスティネーション ボリューム `volA\_dst`の関係を解除します：

```
cluster_dst::> snapmirror break -source-path svm1:volA -destination
-path svm_backup:volA_dst
```

`snapmirror break`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-break.html> ["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

#### 次の手順

デスティネーション ボリュームを書き込み可能にした後に"[レプリケーション関係を再同期する](#)"を実行する必要があります。

## ONTAPでこの処理を行うその他の方法

タスクを実行するツール	参照するコンテンツ
System Manager Classic (ONTAP 9.7以前で使用可能)	<a href="#">"ボリューム災害復旧の概要"</a>

## データアクセス用にONTAP SnapMirrorデスティネーションボリュームを設定する

デスティネーションボリュームを書き込み可能にしたあとは、データアクセス用にボリュームを設定する必要があります。ソースボリュームが再アクティブ化されるまで、NASクライアント、NVMeサブシステム、およびSANホストはデスティネーション

ボリュームからデータにアクセスできます。

NAS環境：

1. ソース ボリュームがソースSVMでマウントされていたのと同じジャンクション パスを使用して、NASボリュームをネームスペースにマウントします。
2. デスティネーション ボリュームのSMB共有に適切なACLを適用します。
3. デスティネーション ボリュームにNFSエクスポート ポリシーを割り当てます。
4. デスティネーション ボリュームにクォータ ルールを適用します。
5. デスティネーション ボリュームにクライアントをリダイレクトします。
6. NFSおよびSMB共有をクライアントに再マウントします。

SAN 環境：

1. ボリューム内のLUNを適切なイニシエータ グループにマッピングします。
2. iSCSIの場合、SANホスト イニシエータからSAN LIFへのiSCSIセッションを作成します。
3. SANクライアントで、ストレージの再スキャンを実行して接続されたLUNを検出します。

NVMe 環境の詳細については、"[SAN管理](#)"を参照してください。

## 元のONTAP SnapMirrorソースボリュームを再アクティブ化する

デスティネーションからデータを提供する必要がなくなった場合は、ソース ボリュームとデスティネーション ボリュームの間で元のデータ保護関係を再確立できます。

タスク概要

- 次の手順は、元のソース ボリュームにあるベースラインが損なわれていないことを前提としています。ベースラインが損なわれている場合は、この手順を実行する前に、データの提供元のボリュームと元のソース ボリュームの関係を作成して初期化する必要があります。
- XDP SnapMirror関係のバックグラウンドでの準備とデータの保存処理に時間がかかります。長時間にわたってSnapMirror関係のステータスが「preparing」と表示されることも珍しくありません。

手順

1. 元のデータ保護関係を反転します。

```
snapmirror resync -source-path SVM:volume -destination-path SVM:volume
```

`snapmirror resync`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-resync.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-resync.html)["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。



このコマンドは、元のソースSVMまたは元のソースクラスタから実行する必要があります。再同期にはベースライン転送は必要ありませんが、時間がかかる場合があります。再同期はオフピーク時に実行することをお勧めします。ソースとデスティネーションに共通のSnapshotが存在しない場合、コマンドは失敗します。`snapmirror initialize`を使用して関係を再初期化します。`snapmirror initialize`の詳細については、"[ONTAPコマンド リファレンス](#)"を参照してください。

次の例では、`svm1`上の元のソース ボリューム `volA`と、`svm\_backup`上のデータ提供元ボリューム `volA\_dst`の関係を反転します：

```
cluster_src::> snapmirror resync -source-path svm_backup:volA_dst
-destination-path svm1:volA
```

- 元のソースへのデータ アクセスを再確立する準備ができれば、元のデスティネーション ボリュームへのアクセスを停止します。その方法の1つが、元のデスティネーションSVMを停止することです。

```
vserver stop -vserver SVM
```



このコマンドは元のデスティネーションSVMまたは元のデスティネーション クラスタから実行する必要があります。このコマンドは、元のデスティネーションSVM全体へのユーザアクセスを停止します。他の方法を使用して元のデスティネーション ボリュームへのアクセスを停止することもできます。

次の例は、元のデスティネーションSVMを停止します。

```
cluster_dst::> vserver stop svm_backup
```

`vserver stop`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/vserver-stop.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/vserver-stop.html) ["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

- 反転した関係を更新します。

```
snapmirror update -source-path SVM:volume -destination-path SVM:volume
```



このコマンドは元のソースSVMまたは元のソース クラスタから実行する必要があります。

次の例では、`svm\_backup`上のデータの提供元ボリューム `volA\_dst`と、`svm1`上の元のソース ボリューム `volA`との関係を更新します：

```
cluster_src::> snapmirror update -source-path svm_backup:volA_dst
-destination-path svm1:volA
```

`snapmirror update`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-update.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-update.html) ["ONTAPコマンド リファレンス"] をご覧ください。

- 元のソースSVMまたは元のソース クラスタから、反転した関係のスケジュールされた転送を停止します。

```
snapmirror quiesce -source-path SVM:volume -destination-path SVM:volume
```



このコマンドは元のソースSVMまたは元のソース クラスタから実行する必要があります。

次の例では、`svm\_backup`上の元のデスティネーション ボリューム `volA\_dst`と `svm1`上の元のソース ボリューム `volA`間のスケジュールされた転送を停止します：

```
cluster_src::> snapmirror quiesce -source-path svm_backup:volA_dst  
-destination-path svm1:volA
```

`snapmirror quiesce`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-quiesce.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-quiesce.html) ["ONTAPコマンド リファレンス"] を参照してください。

- 最終更新が完了し、関係のステータスが「Quiesced」と表示されたら、元のソース SVM または元のソース クラスタから次のコマンドを実行して、反転された関係を解除します：

```
snapmirror break -source-path SVM:volume -destination-path SVM:volume
```



このコマンドは元のソースSVMまたはソース クラスタから実行する必要があります。

次の例では、`svm\_backup`上の元のデスティネーション ボリューム `volA\_dst`と、`svm1`上の元のソース ボリューム `volA`の関係を解除します：

```
cluster_scr::> snapmirror break -source-path svm_backup:volA_dst  
-destination-path svm1:volA
```

`snapmirror break`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-break.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-break.html) ["ONTAPコマンド リファレンス"] を参照してください。

- 元のソースSVMまたは元のソース クラスタから、反転したデータ保護関係を削除します。

```
snapmirror delete -source-path SVM:volume -destination-path SVM:volume
```



このコマンドは元のソースSVMまたは元のソース クラスタから実行する必要があります。

次の例では、`svm1`上の元のソース ボリューム `volA`と、`svm\_backup`上のデータ提供元ボリューム `volA\_dst`との間の逆の関係を削除します：

```
cluster_src::> snapmirror delete -source-path svm_backup:volA_dst  
-destination-path svm1:volA
```

`snapmirror delete`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-delete.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-delete.html)["ONTAPコマンド リファレンス"]をご覧ください。

- 元のデスティネーションSVMまたは元のデスティネーション クラスタから反転した関係をリリースします。

```
snapmirror release -source-path SVM:volume -destination-path SVM:volume
```



このコマンドは元のデスティネーションSVMまたは元のデスティネーション クラスタから実行する必要があります。

次の例では、`svm\_backup`上の元のデスティネーション ボリューム `volA\_dst`と、`svm1`上の元のソース ボリューム `volA`間の逆の関係を解除します：

```
cluster_dst::> snapmirror release -source-path svm_backup:volA_dst  
-destination-path svm1:volA
```

`snapmirror release`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-release.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-release.html)["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

- 元のデスティネーションから元のデータ保護関係を再確立します。

```
snapmirror resync -source-path SVM:volume -destination-path SVM:volume
```

次の例では、`svm1`上の元のソース ボリューム `volA`と、`svm\_backup`上の元のデスティネーション ボリューム `volA\_dst`との関係を再確立します：

```
cluster_dst::> snapmirror resync -source-path svm1:volA -destination  
-path svm_backup:volA_dst
```

`snapmirror resync`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-resync.html>["ONTAPコマンド リファレンス"^]を参照してください。

9. 必要に応じて、元のデスティネーションSVMを起動します。

```
vserver start -vserver SVM
```

次の例は、元のデスティネーションSVMを起動します。

```
cluster_dst::> vserver start svm_backup
```

`vserver start`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/vserver-start.html>["ONTAPコマンド リファレンス"^]を参照してください。

終了後の操作

`snapmirror show`コマンドを使用して、SnapMirror関係が作成されたことを確認します。

`snapmirror show`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-show.html>["ONTAPコマンド リファレンス"^]を参照してください。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。